短大だより

〔発行〕
東北女子短期大学
弘前市上瓦ヶ町25
TEL ㉜ 6151
〔印刷所〕
有限会社新和印刷

平成二十三年度　学園祭
輝く未来への希望を胸に

10月22日・23日に「HOPE～輝く未来への架け橋を～」のテーマのもと、短大・栄養・コンピュータ・経理専門学校四校合同の学園祭が行われました。

平成23年は東日本大震災に見舞われ、東北地方は大きな被害を受けましたが、それを吹き払うかのように学園祭には多くの来場者があり、学内は笑顔で溢れていました。

短大被服科のテーマは「Final～私たちの思い～」で、手作りの様々な作品の展示やCADの紹介などをしました。

生活科は「ECOフード～今こそ節約ECOライフ～」をテーマに、災害時の食事や各家庭での節約方法の紹介、試食コーナーのほか、各課程での講義内容の紹介をしました。

保育科は「わくわく動物園～動物と遊ぼう～」をテーマに、動物にみたてた遊具で遊ぶコーナーや、絵本・紙芝居・手遊びの学生による実演コーナーを設けました。

文化部は展示とステージ発表を行い、各部とも工夫を凝らした内容でした。特に体育館でのステージ発表は大盛況でした。

特別企画「弘前市吹奏楽団によるディズニーミュージックメドレー～みんなに笑顔と元気を～」は馴染み深い曲が多く、手拍子が出るなど会場が一体となって楽しみました。

さらに、食堂・喫茶・販売では好評のカレーライスや豚丼〔みそ汁付き〕などのメニューがあり、来場者は満足した様子でした。

その他、前後夜祭は恒例のファッションショーや体育部の模擬店などで大いに盛り上がりました。

専門学校校舎では、栄専校が「高齢者の食とQOL～食事と衛生について考えよう～」。コンピュータ校では「東コンGame Show」。経理校では「経理world～資格取得～」のテーマで、各校が特長を活かした展示を行い好評でした。

多くの人達に支えられ学園祭も無事終了した今、私たちは輝く未来への希望を持つことができたように思います。ご協力頂きました学生、先生方、地域の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

学園祭実行委員長
学友会会長　工藤亜香音
（生活科二年）

平成23年度学園祭ポスター

被服科「Final」～私たちの思い～

生活科「ECOフード」
～今こそ節約ECOライフ～

保育科「わくわく動物園」
～動物と遊ぼう～

栄養専門学校
「高齢者の食とQOL」
～食事と衛生について考えよう～

弘前市吹奏楽団を招いて行われた「ディズニーミュージックメドレー」

学所長感

学園都市ひろさきの発展に向けて

河西達夫

弘前市にある六つの大学の学長と弘前市長とが話し合って、私たちが住む弘前市が学園都市として、ここで学ぶ学生にとって住みやすい学びやすい環境をととのえようという話し合いの会が発足しました。会の名称は「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」という長い名称ですが、コンソーシアムというのは連絡組織という意味です。

この会は平成19年に始まり、当時の市長だった相馬錩一さんを交えての会合が市役所の市長室で開かれたことを覚えていますが、その後、今の市長の葛西憲之さんに代わってから年に数回、弘前大学学長室などで開かれています。

最近では昨年の11月の日曜日に弘前市民会館の会議室で開かれ、そのときはとくに六つの大学から学生の代表がそれぞれ2名ずつ出席して、自らの希望や要望を述べたりして有益な時を過ごしました。

現在、弘前市の人口は約18万人、このうち六つの大学で学ぶ学生の総数は約1万人、各学校で働く教職員の数は約2千人で、したがって弘前市の人口に対する学校関係者の割合は約6・6％になります。この比率が5％以上になると学都といわれているそうですが、これでいきますと弘前市は立派な学園都市ということになります。

このときの会合で各大学の学生たちが述べた弘前市に対する希望としては、スーパーが少なくて不便、バスの便が少ない、電車賃が高いなどの他、遊ぶ所が少ない、服装店が少ない、などという要望が多かったようでした。私は個人的意見として、弘前には学生向きの教科書や参考書を扱う本屋が少ないのではないか、とかねがねの希望を述べておきました。若い学生の皆さんは知らないかもしれませんが、数年前までは下土手町に今泉本店という古い老舗の本屋さんがありました。ここは戦前からの古い店で、学生の参考書や教科書を沢山揃えていて、学生たちの心の憩いになっていました。この店が閉店になったとき、「青春の思い出残し今泉」という川柳が新聞誌上にのったことを覚えています。

第五十号 紀要掲載論文

《研究題目と執筆者》

心臓の刺激伝導系解明の歴史的考察
　河西達夫

Candida albicansの病原性と形態変化を制御する因子
　三上　健

本学学生における低血圧に関する調査
　松宮ゆり

肥満学生への改善支援
　阿部直子・木村康子・岡本由美子・真野由紀子

学制実施における普及と定着についての一考察～明治初期の青森県の統計的特徴から～
　西　敏郎

田村虎蔵の唱歌教育―言文一致唱歌創作をめぐる論争を中心に―
　西谷紀久子

幼稚園における保育者の行動の特徴に関する一考察
　佐々木典彰・森　和彦

遊びから学びへつなげるための保育者の役割―オランダの幼児教育法から―
　兼平友子

〈研究ノート〉ゲームニクス理論の実践的研究(1)―NUIコントローラに関する考察―
　小山尊徳

中国語における構文「是…的」について～強調する意味を持つ際の成立条件～
　町田秀子

パナソニックの企業分析（I）
　兼平拓道

年報発刊

短大の教育・研究活動活性化の一助として、『年報』を発行いたしました。『年報』は教育・研究の活動報告、公開講座の報告、自由報告の三分野で構成しています。初号は16編の報告がありました。

全国栄養士養成施設協会より表彰される

北山育子先生が多年にわたり栄養士養成教育に貢献した功績により、平成23年11月3日付で、社団法人全国栄養士養成施設協会より表彰状を授与されました。

’11サマー講座（20）

昨年の7月29日・30日に本学でサマー講座が開かれました。

初日の『CGでプリント布地をつくってみませんか』は昨年も行なわれ、2年連続で受講された方もいるくらい人気のある講座で、今年も大盛況でした。

『代謝力アップ・夏の元気レシピ』では「代謝」についての話から入り、計5品をつくりました。受講生の手際がとてもよく担当者が驚くほどでした。

代謝力アップ・夏の元気レシピ

また今年は講義形式の講座が多く『ニーハオ!!中国語～中国茶を楽しみながら～』では、中国語の発音や挨拶とともに、中国茶を通して中国文化を学び、『子どもの遊びと生きる力～カリキュラムの変遷から～』では、子どもの遊びが「生きる力」へと繋がっていることを学びました。

ニーハオ !! 中国語
～中国茶を楽しみながら～

2日目の『熱中症の予防と水分補給』では熱中症発症のメカニズムと運動中に気をつける点を、『インフルエンザの基礎知識』ではインフルエンザの歴史や日本との関係について学びました。

2日間を通じて100人近くの方が受講してくださり、今回も大盛況のうちに終えることができました。

特集 被服科のあゆみ

被服科は、平成24年3月で生活科に吸収される形で発展的に解消し、開校以来61年の歴史を閉じることになりました。
これまで二千百二十五名の卒業生を送り出した被服科のあゆみを振り返ってみます。

被服科の設立と発展 有能な家庭科教員の輩出

被服科の祖は、大正初年、柴田やす先生が始めた小さな私塾から、大正12年に各種学校令により設立の認可を受けた「弘前和洋裁縫学校（翌年弘前和洋裁縫女学校と改称）」に始まる。その後昭和25年、戦後の教育制度改革で東北女子短期大学となり、被服科はその唯一の学科として定員40名でスタートした。同年5月5日被服科一回生28名の入学式が行われた。教員組織も整えられ、豊富な教授陣での出発であったが、5月14日、開学式の壇上で創立者柴田やす先生は急逝し、教育者としての生涯を閉じられた。「柴田やす女史追悼録」にはその時の状況を「先生は静かに花の崩れるように壇上に倒られた」とある。この出来事は、本学創立の心の礎として現在まで語り継がれている。

その後、教授今村敏先生が率先して教育にあたり入学生も順調に伸び、昭和29年には定員増の認可を受け、同年認可させた生活科と共に上瓦ヶ町の新校舎に移転する。

また、この年には高等学校教諭免許状と中学校教諭免許状「家庭・保健」と併せて取得できるようになり、教職に就く卒業生は、これによって更に数多く輩出され、教育界で活躍することになった。

昭和40年には、保育科が増設されることで、教育分野がさらに広がり東北女子短期大学は、学生数ピークの時代となり、被服科も充実した時代を迎える。

創立当初の短大制服（昭和25年12月）

「山靄」藍による絞り染め 一年合同作品 タペストリー（昭和63年）

短大・女子大合同作品展 ポスター（平成15年）

新しい被服科へと変貌 衣料管理士養成、CADの導入

昭和50年代に入ると、消費拡大に伴う多様な繊維製品の開発に消費者の戸惑いがみられるようになった。

そのような時勢にそうため、昭和57年、被服科において衣料管理士の養成も行うことになった。

衣料管理士は、消費者に正しい情報を提供するとともに、メーカーには消費者苦情のフィードバックをし、両者の情報交流を図る役割を担う人材である。

平成22年度までの衣料管理士資格取得者は282名になっている。

この衣料管理士の養成のために、カリキュラムの改正やアパレルCADの導入が行われ、さらには学生の視野を拡げることを目的に学外研修旅行を行う等、教育内容の充実が図られた。

これに並行してこれまで培ってきた質の高い技能を作品展で公開するなど、被服科は伝統を受け継ぎながら時代と共に歩む教育を模索し、今日に至っている。

被服科は今年度でひとつの大きな区切りを迎えるが、卒業生は家庭科教員、ファッションアドバイザー、パターンナーなど多様な専門職に就き、現在も地域社会において活躍している。

▼学園祭で発表した作品

▲第１回京都学外研修旅行 京都国立博物館前で（平成４年９月）

▼被服構成学　ＣＡＤ実習

思い出

被服科長　浅利　侑

私が東北女子大学から東北女子短期大学に転勤した昭和56年秋のことです。同窓会からの要請だったと思うのですが、三沢支部に準備して頂いた会場で学生と先生方の作品展が催されました。初めて見る展示作品の素晴らしさもさることながら、母校に寄せる卒業生の熱い思いと、伝統を守り伝えようとする先生方の熱心さに圧倒された記憶が未だに残っています。これをきっかけに「被服科作品展」は隔年で開催され、また平成10年からは女子大家政学科と合同で、青森や弘前を会場に平成15年まで行われました。

しかし、多くの人に支えられてきた被服科も、発展的に解消することになりました。

創立時から被服教育のために努力されてきた先人達の思いがたち切られることになり、時代の流れとはいえ、非常に残念です。

現在の二年生４名は最終の学生としての気概を保とうと、日々勉学に勤しんでいますが、一抹の寂しさを覚えているようです。二年間の思い出について一様に寂しさ、無念さを訴えながらも「いつかは必ず被服科の復活を」と述べていました。

その願いが将来実現することを切に希望しています。

あれこれ

三味線部　真剣なまなざしで

ファッションショー

モデル初挑戦　堂々と

体育部

弘前市総合バレーボール選手権

インカレ中止で今年度初の公式試合

アタック!!　VS. 弘大！

冬季球技大会

簡単そうで難しいソフトバレーボール

チームワークはバッチリ「Gee」チーム

秀芝寮クリスマス会

サンタとトナカイ登場でムードは最高に

やっぱり盛り上がる余興・ゲーム

士実務演習

養教育実践

保育科１年スキー実習

悪天候にもかかわらず楽しんでます！

送　別　会

先輩方へ感謝を込めて

腕相撲、どっちが勝つか！

授　業　あ　れ　こ　れ

「みんなで仕上がりを確認して」
被服製作実習(3)　被服科２年

「細菌の形はうまく見えますか？」
食品衛生学実験　生活科１年

「手遊びも、音程　しっかりね！」
表現(1)　保育科１年

「♪子ぎつね
コンコン
山の中～♪」

栄養研究部 ホットアップルジュース

ただいま、試飲中!!

アレンジレシピを開発しました

第5回 おらほの田舎スイーツコンテスト

みんなでアイディアを出し合い、うれしい入賞

「しょうがみそおやき」

「りんごぼうケーキ」

学　園　祭　お

ＳＧ同好会の初ステージ

手作りの浴衣で　ハイ、ポーズ

カフェテリア ホール ― 生活科2年栄養

昼の楽しいひととき、
今日のメニューもおいしいです！

ふじ保育園での栄

学友会

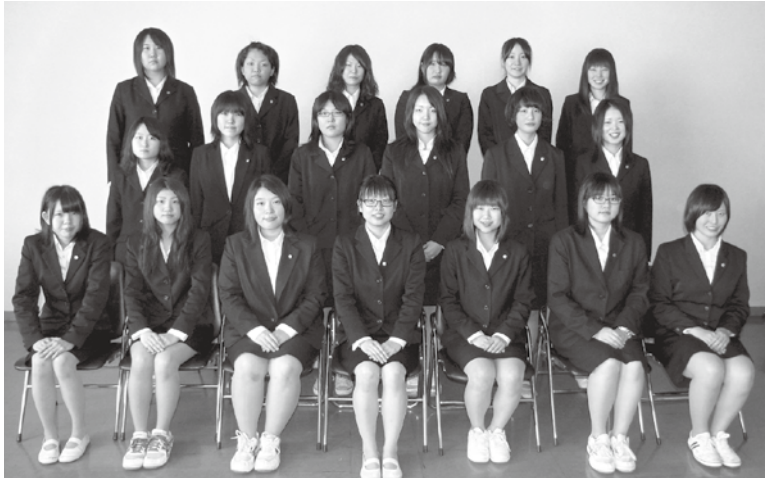
新役員決まる

平成二十三年度学友会役員の任期満了にともない11月24日の選挙で左記のように新役員が選出されました。

会　長　齋藤真梨子（保育科）
副会長　小林　瑞希（生活科）
副会長　宇野　千聡（保育科）
総会議長　仙木　亜美（生活科）
副総会議長　白川　小夏（保育科）
代議員長　山崎　愛美（生活科）
副代議員長　藤田沙奈恵（保育科）

会長より任命された執行委員、ならびに文化部及び体育部の部長会議において推薦された部会長、副部会長は次の通りです。

会計　小林　成美（生活科）
会計　宮本　春香（保育科）
記録　佐々木愛梨（生活科）
記録　田崎　美穂（保育科）
企画　齋藤　千聖（生活科）
企画　澤田　真衣（保育科）
庶務　小沼　茉以（生活科）
庶務　小西　紗弥（保育科）
文化部長　今井　麻美（保育科）
副文化部長　市川　真衣（生活科）
体育部長　伊藤　和希（生活科）
副体育部長　大久保　咲（保育科）



（後列）左から　宮本春香・齋藤千聖・伊藤和希・市川真衣・澤田真衣・大久保　咲
（中列）左から　田崎美穂・小西紗弥・佐々木愛梨・今井麻美・小沼茉以・小林成美
（前列）左から　藤田沙奈恵・山崎愛美・小林瑞希・齋藤真梨子・宇野千聡・仙木亜美・白川小夏

新会長 抱負を語る

学友会会長
齋藤真梨子
（保育科１年）

短大に入学し、もうすぐ一年が経とうとしています。

慣れないことばかりで不安だった私たちが、これまで充実した学校生活を送ることができたのは、先輩方が温かく迎えてくれたからだと思います。

私は、自分たちの手で更に楽しくより良い学校にしたいと思い、学友会会長に立候補しました。前会長の工藤亜香音さんをはじめ、先輩方からいろいろなお話を聞かせていただき、具体的な目標にはまだ至っていませんが絶対に楽しい学校にしていきたいです。

そして、少しでも皆さんの力になれるように頑張ります。

頼りがいのある学友会を目指し、精一杯努めていきますので、役員一同よろしくお願いいたします。

コンソーシアム 学生委員会に参加して

学園都市弘前高等教育機関コンソーシアム学生委員会に一年間参加し、弘前大学、弘前学院大学、弘前医療福祉大学、東北女子大学の学生とともに弘前について話し合いました。

私が参加した会議のテーマは「弘前の街づくりプラン」でした。

コンソーシアムの委員には弘前市以外の学生もいて、客観的に弘前の良い所などを話し合う中で、改めて自分の住んでいる弘前の良さ等について気づくことができたように思います。

私は学友会役員でもあったため、なかなか活動には参加することはできなかったのですが、他大学の学生と集まり、自分の住んでいる街について考え話し合う機会はとても貴重で、楽しい時間でもありました。

今後私たちの後を一年生が引き継ぎこの活動を続けていくと思いますが、積極的に取り組み、よりよい街づくりのために活躍してほしいと思います。

保育科二年　木村　彩

ボランティア活動

12月4日、弘前市総合学習センターで行われたピュアフレンズの会・ボランティア活動に参加させていただきました。内容はスポーツレクリエーションなどを通して、知的障がいのある青年約40名と交流するというものです。

まず朝の会での自己紹介からスタートし、その後、玉入れ、○×クイズなどの補助を行いました。なかでもフライングディスクは想像以上に難しく、障がいを持つ方々から投げ方のコツを教えて頂きました。初めてのボランティアで戸惑う私に優しく接してくれ、思いやりのある方がたくさんいらっしゃると感じました。

朝の会で自己紹介をする砂田さん（右）

今回のボランティアを通して、障がいをもつ方々の気持ちになり、今何をしようとしているのかを判断して動くことは難しかったのですが、とても勉強になりました。

生活科一年　砂田　奈緒

東日本大震災義援金

学友会では、学園祭期間中に東日本大震災支援のための義援金を募りました。集まった義援金3万1141円で岩手県山田町立船越小学校へラジカセ5台を贈りました。

ご協力ありがとうございました。

思い出の学生生活

物作りの楽しさを再確認した京都研修旅行

被服科二年　對馬有紀

私は被服科に入学して、沢山の思い出があります。その中でも一番心に残っているのはクラスの皆で行った京都研修旅行でした。

川島織物中央技術センターでは、織物を行っている現場を見学し、職人さんの慣れた手つきの仕事ぶりに、驚かされることばかりでした。日本刺繍館では、作品を見て、刺繍で作ったとは思えないものばかりで、とても奇麗に表現され、また、光沢のある絹糸を使っているので、より一層輝いて見えました。刺繍の刺し方を工夫することで立体感に溢れ、迫力を感じました。古代友禅苑では友禅染体験をしました。物作りの楽しさを改めて再確認できました。

そして、京都ならではの歴史を感じさせる清水寺や西本願寺などを見学することもでき、とても貴重な充実した4日間でした。

京都研修旅行　右が對馬さん

一期一会

保育科二年　工藤秋穂

私は短大生活で沢山の素敵な人に出会いました。

保育科のみんなはとにかく元気で、教室はいつも賑やかです。以前の私はそれが嫌で、静かにして欲しいと思っていました。しかし、みんなで協力して何かを成し遂げることを経験するうちに、保育科は何事にも真面目に取り組み、団結力があり、何より優しくて友達思いな人ばかりだと気付き、それからは毎日が楽しくてなりませんでした。

元気な仲間に囲まれて
右から二番目が工藤さん

体育大会や学園祭は今でもはっきり思い出せるくらい心に残っていますが、講義の合間の休み時間の何気ない会話で腹を抱えて笑い合ったことや講義中の私語が度を越えてしまって先生に注意を受けたこと、放課後にみんなでピアノボックスに駆け込んで焦ってピアノを練習したことなども大切な思い出です。こんな素敵な仲間との二年間は最高でした。ありがとう、みんな！

楽しかった二年間

生活科二年　村木望帆

短大の二年間はとても充実したものでした。そして、私はずいぶん成長できたように思います。

入学した当初は、不安でいっぱいでした。

私は不器用で、中学校の家庭科の授業ではクラスメートから包丁の持ち方が危ない、と言われていました。その私が、「だし」をとったり、きゅうりを切ったりすることが、皆と同じレベルまで上達したのです。また被服製作実習ではスカートも作れるようになりました。このように一つひとつが確実に身について、栄養士実習や栄養教育実習を無事終えることができました。

また、茶道部に入部したことで、交友関係も広がりました。学園祭のお茶会や四大学合同茶会に部員全員で頑張ったことも忘れられない思い出です。

このような楽しい二年間を過ごすことができ、友人や家族、先生方に本当に感謝しております。

クラスメートと一緒に
右、中央が村木さん

闘いと喜びの毎日

生活科二年　堀江祥子

社会人入学してから早いもので、二年が終わろうとしています。

私が入学しようと思ったのは、最近、生活習慣病が増え、食生活の在り方が見直されるようになったことがきっかけでした。栄養学を学び、栄養士として一次予防の仕事に関わりたいと考えました。

入学してからは、闘いと喜びの毎日でした。闘いは、睡魔や記憶力低下との闘いです。喜びは、今まで知らなかったことを知る喜びです。

37年ぶりの学業は想像以上に大変でしたが、振り返ってみると喜びの方が多い二年間でした。

在学中は先生方の心温まるご指導と若いクラスメートの支えで、困難を乗り越えることができました。心から感謝申し上げます。

「お正月料理を作りました」
マネージャーは堀江さん

キャリア支援

本学では、一年次から様々な形でキャリア支援を行っています。

今年度後期から、新たに「キャリア基礎演習」の時間を設けました。内容は「キャリア形成について」「仕事のための法律や経済」「職業の理解」「コミュニケーションについて」などこれからのキャリアを考える上での基礎となるものから、具体的な就職活動の実際などが計画されています。

ワークショップや、各方面で活躍している卒業生の職業体験談も盛り込まれています。

「職業理解」の時間では、栄養士をはじめ保育士など卒業生6人が仕事のながれや内容などを語ってくださいました。体験から得た先輩からのアドバイスや熱いエールに一年生は一様に、理解が深まり、将来を考えるチャンスとなったと話していました。

熱いエールを送った卒業生

内定した二年生からのメッセージ

早い時期から就職を意識した生活

私は社会福祉法人大空大仙に内定しました。ここは認定子ども園で幼稚園と保育園があり、実習をさせて頂いたところです。特に幼稚園実習では、子ども達に言葉遣いや挨拶がしっかり出来るように心がけました。

実習終了後の11月に、是非勤めたいと思い、履歴書を持参してお願いをしました。就職を意識して普段から積極的に生活してきたことが、良い結果につながっていったように思います。春からは念願の保育職に就きます。頑張ります！

保育科二年　千葉江梨香

積極的に企業ガイダンス・説明会に参加

就職活動を始めたのは一年生の2月からでした。興味ある企業のホームページや学校求人を活用して、企業ガイダンスや説明会に積極的に参加しました。その中から私が希望する栄養士の会社を何社か受けました。過去に出題された問題や面接の内容を見せてもらい本番に備えましたが、思うようにいかず、ようやく内定を得たのは11月でした。

春から東京に勤務し、一人暮らしをします。不安もありますが、学んだことを活かし、栄養士として頑張るつもりです。

生活科二年　小山内清香

弘前とわたし（15）

生活科二年　前原　かなる

短大入学を目前にした平成22年4月、それまで何度か弘前を訪れたことのある私でしたが、親元を離れての寮生活に不安でいっぱいだった事を覚えています。

弘前市と私の出身地である三沢市は、街の雰囲気も違えば言葉も違います。弘前の魅力をひと言で表すなら一年を通じて四季折々の祭りがあるところではないでしょうか。

全国的に有名な弘前公園の桜祭りでは、桜の美しさはもちろん、観光客の多さや出店の活気にも圧倒され、人々を惹きつける魅力を存分に感じながら友人と散策しました。

ねぷた祭りでは、寮の部屋の窓から次々と見える扇ねぷたを、携帯電話を片手に写真を撮ったのも楽しい思い出です。

このような祭り事は寮や学友会の役員として忙しい日が続いていた私に、息抜きと励ましを与えてくれていたような気がします。また、それ以上に学校の友人や寮の仲間からも応援や協力があり、今こうして卒業を迎えられるのだと思います。

振り返ると、弘前での思い出は常に良い仲間と一緒でした。その思い出や経験を大切にし、卒業後も頑張っていきます。弘前の街、みんな、二年間どうもありがとう!!

弘前城をバックに寮の仲間と左が前原さん

同窓会だより　短大・専門学校同窓会

―支部会開かれる―

同窓会には各地に支部があります。平成23年度は上北、むつ下北、青森支部が総会並びに懇親会を開催しました。三つの支部ともその地区の同窓生が集まり、また役員、短大・専門学校・女子大の先生方も出席して、会は和気あいあいとした雰囲気で行われ、近況報告や学生時代の恩師、友達の懐かしい話で盛り上がりました。これからも同窓生が各地で活躍し、つながりの輪を広げていってほしいと思っています。《庶務》

話しがはずんだ支部会

ホットアップルジュースを使ったレシピを開発

県の中南地域県民局から「県産の100％ストレートのリンゴジュースを、温めて作った若い女性向けのアレンジレシピを」との依頼があり、栄養研究部が10月から取り組みました。

出来上がったレシピは、「さつまいもアップル」ほか黒糖とすりおろしたショウガを加えた「ホットアップル黒糖ジンジャー」、チョコレート、かたくり粉を混ぜ合わせた「とろ～りホットチョコ」など8種類。10月の学園祭では来場者に試飲してもらい喜ばれました。レシピは短大ホームページに掲載されています。

「ホットアップル黒糖ジンジャー」

編集後記

記録的な豪雪と寒さがようやく緩みはじめ、春の息吹を感じるこの頃です。

本学学生も学校生活の思い出を胸に巣立つ日が近くなりました。健康に留意して、力強く羽ばたいてほしいと願っております。

本号は行事や思い出を中心に掲載しました。特集「被服科のあゆみ」もどうぞご覧ください。

《学生課・工藤》